

# 質問の仕方

質問は答えの内容によって、次の四種類に分けられます。

質問は自分がわからないことを解決する手段だけではない。的確な質問をすることで、相互理解が進み、コミュニケーションが活発になったり、思考が深まったりする。

目的に応じた使い分け

質問の目的を明確にして、知りたいことを聞き出せるように質問を使い分けよう。

## 定める問い合わせ

クローズドクエスチョン

▶ 答えが限られる

### ② 選択型

動物園と水族館のどちらが好きですか？

選択肢の中から答える

どちらも好きです。  
動物園が好きです。  
水族館が好きです。

### ① イエス・ノー型

あなたは水族館へ行ったことがありますか？

「はい」か「いいえ」で答える

いいえ。  
はい。

## 広げる問い合わせ

オープンクエスチョン

▶ いろいろな答えが出てくる

### ④ 思考促し型

あなたはどんな水族館に行ってみたいですか？

決まった正解がない

海の生物たちと触れ合える水族館に行ってみたいです。

### ③ 情報取り出し型

いつ水族館に行きましたか？

事実として決まった正解がある

小学6年生の夏休みに行きました。

## 質問を重ねる時の工夫

インタビューのように、あらかじめいくつかの質問を用意していたり、相手の答えに対してもう一つの質問をもつたりした場合は、何度も質問を重ねていこう。この時に、相手が答えやすくなる工夫をすると、やりとりが充実したものになる。例えば、「広げる問い合わせ」から始めるのではなく、「定める問い合わせ」から始めて「広げる問い合わせ」へつなげたほうが、多くの場合、「広げる問い合わせ」がよりよい人間関係を築くことにつながる。

相手が答えやすくなる。

質問を重ねる時、「なぜですか」「それはなぜですか」と聞く方が単調になると、相手を問いつめているように聞こえるので注意が必要だ。相手の言葉を引用したり、言いかえたりすることで、単調な聞き方になるのを防ぐことができる。相手が質問に答えている時は、興味をもって聞く。質問から広がるやりとりが、よりよい人間関係を築くことにつながる。

会話の中でわからなかつたことを確かめる時にこの質問を使う。  
① イエス・ノー型  
② 選択型  
③ 情報取り出し型  
④ 思考促し型

相手の説明がよりわかりやすくなる！

相手の意見を深く掘り下げたり、視点を変えて発想を広げたりする時にこの質問を使う。

相手から深く考えた答えを得られる！